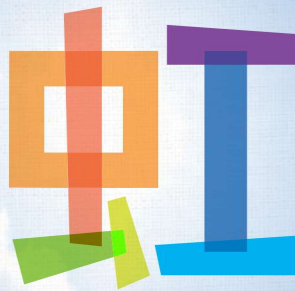


co-op

三重の生協の
今を伝える

みえの



No.137

2026年7月

三重県生活協同組合連合会

〒514-0009 三重県津市羽所町379
TEL.059-228-9913 FAX.059-228-9915
<https://miekenren.jp>



第50回 通常総会を開催しました

三重県生活協同組合連合会の第50回通常総会を、6月16日(火)アスト津アストホールにて開催しました。当日は代議員総数32人に対し、実出席28名、書面議決4名の参加でした。

茂木会長理事の挨拶の後、ご来賓の三重県環境生活部くらし・交通安全課の原課長、三重県原爆被災者の会の山口会長、消費者市民ネットワークみえの吉本代表、日本生活協同組合連合会関西地連の村上事務局長よりご祝辞をいただきました。鈴木専務理事が第1号議案から第4号議案までを一括して提案し、菅谷監事が第1号議案に関わる監査報告をおこないました。

生協コープみえの石川代議員からは、2025年度コープみえの活動報告と2026年度三重県生協連方針への意見について、みえ医療福祉生協の桐山代議員からは、体験・展示型を主とした組合員活動交流集会の開催と成果について、三重短期大学生協の麻生代議員と山口さんからは、大学の食堂運営を中心とした新学期の取り組みについて、三重県学校生協の村上代議員からは、2025年度の新規事業「HappyProject」について、三重県労働者共済協の近藤代議員からは、社会貢献活動と組合員感謝イベントの取り組みについて、食と健康の委員会の猿渡代議員からは「食品ロス川柳かるた」の具体化にむけた取り組みの報告があり、鈴木専務理事が理事会としての受け止めを回答しました。

その後の議案採決では、全議案が賛成多数で可決されました。

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 第1号議案 | 2025年度のまとめと決算報告
ならびに剰余金処分案の件 |
| 第2号議案 | 2026年度活動方針と予算案決定の件 |
| 第3号議案 | 役員(理事9名、監事2名)選任の件 |
| 第4号議案 | 役員報酬決定の件 |



ご挨拶/会長理事 茂木 穰

アメリカとイスラエルの攻撃で始まったイラン戦闘は中東に広がり、世界的な化石エネルギー不足を発生させています。さまざまな価格の高騰・もの不足・農業生産への影響などを発生させ、私たちのくらしに大きな影響を与えています。両国とつながりある日本政府は、話し合いによる平和外交を強めることが求められています。



世界各地で豪雨・干ばつ・高温などの異常気象による自然災害が発生し、今年にもスーパーエルニーニョが発生すると予測され、世界中の食糧生産に深刻な影響が出ると言われています。国内では、異常気象とともに南海トラフ地震が予測されており、行政や地域諸団体との連携を強め、自力を付けて地域復興と早い事業再開に向けて対応力強化をすすめてまいります。

私たちのくらしをより良くするためには、物価の高騰を抑えることであり、そのために世界平和と、外国からの輸入食品を減らし食料自給率を高め、円安是正をすすめる政策転換が必要です。

昨年は国際協同組合年でした。協同組合らしい助け合いの力の発揮、協同組合間の協同の取り組みなどをさらにすすめ、行政や地域諸団体との協力をさらに強め、地域共生社会を広げるために努力してまいります。

一人は万人のために 万人は一人のために

生活協同組合
コープみえ

みえ医療福祉
生活協同組合

三重県学校
生活協同組合

三重大学
生活協同組合

三重短期大学
生活協同組合

三重県立看護大学
生活協同組合

三重県労働者共済
生活協同組合

2026年度役員紹介

理事（代表理事）	茂木 穰（員外）	重任
副会長理事	堀尾 茂貴（みえ医療福祉生活協同組合 専務理事）	重任
専務理事（代表理事）	松本 宏一（生活協同組合コープみえ 理事長）	重任
理事	枝松 かおり（三重県学校生活協同組合 専務理事）	重任
理事	竹内 信也（三重大学生協同組合 専務理事）	重任
理事	鈴木 浩（みえ医療福祉生活協同組合 理事長）	重任
理事	前野 深雪（生活協同組合コープみえ 副理事長）	新任
理事	村田 正樹（生活協同組合コープみえ 専務理事）	新任
理事	嶋崎 邦彦（三重県労働者共済生活協同組合 専務理事）	重任
監事	菅谷 芳則（みえ医療福祉生活協同組合 監事）	重任
監事	森下 智（生活協同組合コープみえ 常勤監事）	重任

2026年度専門委員会とプロジェクトチーム

平和活動委員会	食と健康の委員会	協同をすすめる委員会	大規模災害に備えるプロジェクトチーム	生協大会実行委員会
地域の平和活動団体とのつながりをより深め、核兵器廃絶と戦争のない平和な社会づくりに向けて取り組んでいきます。	会員生協の食と健康に関わる取り組みがすすむことをめざすとともに、学びの機会をつくっていきます。	三重大学人文学部特殊講義「協同組合論」の運営を担い、あわせて関係する諸団体との連携を推進します。	三重県での甚大な被害発生を想定し、会員生協と三重県生協連で事業・地域活動の面から必要な備えの検討をすすめます。	会員生協と連帯し、地域の皆さんと社会的な課題やくらしの課題について考えあう機会となるよう、生協大会の具体化に向けた検討をすすめます。

活動報告

「大分県大分市佐賀関大規模火災支援募金」へ支援募金を送金しました

11月18日（火）、大分県大分市佐賀関で大規模火災が発生しました。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。三重県生協連では、大分県生協連からの「大分県大分市佐賀関大規模火災支援募金」の呼びかけに応え、被災地と被災者へご支援になればと、支援募金をお送りいたしました。被災地の一日も早い復旧と復興を願っております。

開催報告

災害ボランティアセンター運営者養成研修会を開催しました

12月12日（金）、三重県教育文化会館にて、「2025年度災害ボランティアセンター運営者養成研修会」を開催しました。講師には、公益財団法人ピースボート災害支援センターの関根 正孝氏をお招きしました。昨年に続き2回目となる本研修会では、前半は発災時に被災者がおかれる状況を知り、災害ボランティア活動の種類や参加方法と、活動の流れや災害ボランティアセンター（以降、災害VC）の役割等について学びました。

後半はチームに分かれて「災害VCマッチングシミュレーションゲーム」を行い、参加者は災害VC運営者の一人として、チームで議論を交わしながらボランティア希望者と被災者のニーズを次々とマッチングさせていきました。ゲームの疑似体験や参加者どうしの意見交流を通して、災害VC運営の3原則の考え方とその重要性について実感を得ることができました。



開催報告

「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」活動を行いました



12月24日（水）、みえ医療福祉生協の津生協病院で、ユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」活動を行いました。会員生協の役職員は募金活動前の学習会で、三重県ユニセフ協会の吉田事務局長から、ユニセフの活動について学び、その後ロビーで募金箱や横断幕をもって募金を呼びかけました。来院された方や、病院のスタッフ、職員の皆さんが足を止めて、ユニセフへ募金を寄せてくださいました。

活動報告

三重県議会の正副議長と三重県生協連の役員が懇談を行いました



12月17日（水）、三重県議会棟で、三重県議会の服部議長と森野副議長、三重県生協連の役員が懇談を行いました。当連合会からは、三重県政へ6項目の要望を提出しました。正副議長には、一様に大事な課題であると受け止めていただき、被災地支援の取り組みなど、今後も生協に期待する旨のご意見をいただきました。

開催報告

三重県食の安全・安心研修会を開催しました



1月24日（土）、アスト津会議室1とオンラインで、三重県と三重県生協連の共催による三重県食の安全・安心研修会「お米の流ってどうなっているの？」を開催しました。食の安全・安心をテーマとした三重県との学習会の共催は、2019年度以降7年連続の開催です。当日は会場21名、オンライン24名、合計45名の参加がありました。東海農政局の職員を講師にお招きし、米の流通経路や価格高騰の背景についてと、購入の際の選択に重要な食品表示と米トレーサビリティの制度を学びました。戦後から現在までの国の米穀流通制度の変遷や、この間のお米の価格高騰の背景と考えられる様々な要因について、三重県や全国の米の収穫の見込みなど、数字やグラフとともにご説明いただきました。

参加者からは「価格上昇の背景を知ることができた」などといった感想が寄せられました。

開催報告

大規模災害に備える×ジェンダー平等学習会を開催しました



2月25日（水）、アスト津会議室1にて、「2025年度DE & I・ジェンダー平等基礎学習会～大規模災害に備える×ジェンダー平等～」を開催しました。講師には三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」の宮田 直樹氏をお招きし、役職員など30名の参加がありました。

今年は防災・減災の視点で、DE & Iとジェンダー平等について学びました。平時ですら男女共同参画が十分にすすんでいない日本社会では、非日常となる大規模災害の発災時にジェンダーへのバイアスにとらわれ男女ともに大きな心身の負担が生じてしまうという現状を、統計や事例を通して知ることができました。大規模災害への特別な備えという視点ではなく、平時から家庭や職場、地域で様々な人が参加しやすい環境をつくり多様性を受け入れる意識を育むことで、発災等の緊急時にも特定の人に負担を負わせることなく、みんなが普段持っているそれぞれの力を発揮できることを学びました。

活動報告

イランをめぐる武力攻撃に対する即時停止と、対話による平和的解決を強く求める緊急声明を発信しました

2月28日(土)、アメリカとイスラエルが、イランへの軍事攻撃を開始しました。イラン国内の複数の都市や、軍事、政府関連の施設が標的となり、イランは報復攻撃を行い、中東全体の緊張が高まりました。

三重県生協連は、この事態を重く受け止め、即時停止を求めるとともに、対話による平和的解決を求める緊急声明を発信しました。

開催報告

ピースアクションinオキナワへ参加しました

3月25日(水)～27日(金)に開催された「ピースアクションinオキナワ-第43回沖縄戦跡・基地めぐり-」に、三重県生協連の会員生協から職員1名が参加しました。

今年のテーマは「戦後80年を超えて沖縄から問いかける『平和とは何か』」です。一日目の戦争体験を聞く学習や分散会での講演の後、二日目のフィールドワークでは、全国の参加者とともに沖縄本土各地に残る戦跡や基地を巡り、住民を巻き込んだ沖縄戦の実相や戦後から現在にいたるまでの沖縄の現状や諸問題について、じっくりと学びました。三重県生協連では、引き続き平和の取り組みをすすめてまいります。

《参加者の感想(抜粋)》

沖縄の地上戦の体験を聞かせてもらいました。その様な体験や専門家から沖縄の現状を聞いた翌日から、ガイドの方の説明と共に巡る風景は、空港に到着した時とは随分違うものになっていました。知らなければ考える事も議論することもできません。戦後80年以上たち、戦争の体験について語れる方も減ってきています。機会があれば、みんなにも参加する事を勧めたいと思います。



平和祈念公園からみた摩文仁の丘

お知らせ

第37回三重県生協大会 「介護とジェンダー～ケアする社会の課題を考える～」を開催します

高齢化が進むなか、介護は特別な人の問題ではなく、私たち一人ひとりの身近な暮らしの課題になっています。誰かに頼ることや支え合うことをどのように受けとめ、地域や社会のなかでどのように形にしていくとよいのでしょうか。本大会では、長年ケアやジェンダー問題を研究されてきた上野千鶴子氏を講師にお招きし、介護とジェンダーの視点から「支え合いのある社会」を、多様な視点から考える機会として開催します。

日時 9月26日(土) 10:00～11:50(開場9:20～)

場所 三重県総合文化センター小ホール(津市一身田上津部田1234)

講師 上野千鶴子氏(社会学者、東京大学名誉教授)

募集人数 270人(全席自由) 参加費無料

*事前の申し込みが必要です。定員になり次第、受付を終了させていただきます。

募集開始 7月1日(水) 9:00より

募集〆切 9月10日(木)

主催 三重県生活協同組合連合会



撮影者：後藤さくら